

第40回 新型コロナウイルスとウガンダ

世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの感染が南極を除く全大陸で確認されていることを受けて、3月11日に「パンデミック」を宣言しました。WHOによると、その時点での新型コロナウイルスの症例数は11万8000例、死者は4000人以上でした。それから1ヶ月経った4月10日現在感染者は160万人以上、死者は10万人を超えています。サブアフリカへの感染は2月28日にナイジェリアで初めて記録されましたが、今ではほとんどの国でウイルス感染者が出ています。日本でもニュースのほとんどがコロナウイルス絡みですが、ウガンダも同様です。ムセベニ大統領も躊躇なく強力な予防措置を次々と打ち出すとともに頻繁に国民に演説をして先頭に立ってコロナ感染症対策を啓蒙しています。

実は、私は定期的な人間ドックを受けるとともに加療してもらう必要もあって3月6日にウガンダを出発し一時帰国しました。しかし、その間にウガンダがウイルス予防対策のために全ての国境を閉じてしまいまして帰任できないまま日本での滞在を余儀なくされております。完全に国家的にロックダウンされたウガンダの状況を私が現地からお伝えしたかったのですがそれもかないません。そこで今回のカンパラ通信ですが、ウガンダの方と結婚してカンパラ郊外に在住しているムカサ衛（まもる）さんをお願いして現地レポートしてもらいました。ムカサさんには現地レポートを快諾していただきましたことに厚くお礼申し上げます。それでは厳しいコロナウイルス感染症対策の下でウガンダの市民がどのように日々を過ごしているかを以下の4月10日現在のムカサさんのレポートで垣間見て下さい。

\*\*\*\*\*

現在世界的なパンデミックを起こしている新型コロナウイルスですが、ここアフリカも例外ではなくウイルスによる影響が様々な形で出ています。ウガンダでも4月10日現在53名の感染者が確認されており、ヨーロッパ諸国のような急激な拡大はありませんが、日々じわじわと感染者を記録しています。今回はロックダウン中のウガンダはワキソ県（首都カンパラに隣接する県）より、コロナウイルスがウガンダの人々の生活にどのような影響を与えているか、私なりに観察した様子をお伝えしてみたいと思います。

世界に一足遅れを取り、東アフリカでは3月13日初めてのコロナウイルス感染者がケニアで確認されました。その後14日にルワンダ、15日にタンザニアと相次いで隣国で感染者が確認されてからも、内陸国ウガンダは感染者ゼロの座を守っていました。当時のウガンダでは、イエメンからアフリカの角を経てウガンダに入国した数億というバッタの襲来が国の大きな関心の的となっており、食料危機をもたらすバッタ対策で政府は大忙し、

コロナウィルスは遠い地で起きていること、まさに対岸の火事でした。隣国をはじめアフリカ各地でのコロナウィルスの感染が確認されはじめていたこともあり、ムセベニ大統領は3月18日に国民向けにスピーチを行い、予防的措置として全ての学校を32日間閉鎖することを発表しました。同時に、宗教関連や冠婚葬祭等の集会も禁止となりました。ためらいのない、とても潔い決断でした。感染者がゼロなのに突然の休校が決まり、学費を払ったばかりなのにどうすればいいのだ、と嘆く声もありましたが大方の人々に大きな支障はなく、今までどおりの生活を続けることができました。

しかし、そんなウガンダでも3月22日に初めての感染者が確認されました。それから次々と大統領からの指令が出され、人々の日常は大きく変化していきました。感染者が確認されたと同時に全ての国境が封鎖され、もちろんエンテベ空港も閉鎖となりました。また、公共交通機関の運行禁止が言い渡され、多くの人々がカンパラ市内まで徒歩や自転車で通勤したのです。ふだんからよく歩くこちらの人ですが、こんなに大勢の人が歩いている様子を見たのははじめてでした。荒い運転をする乗合タクシーのマトツがいなくなり、バイクタクシーのボダボダの数も激減したため、ふだんであれば四方八方に気を配り神経をすり減らして運転するのですが、この数日は静かな道路をととても快適に運転することができました。その後、自家用車の使用も禁じられたため、多くの方は移動手段を失い、事実上のロックダウンが始まりました。また、午後7時から午前6時半までの夜間外出禁止令が出され、これに反した人は厳しく罰せられることになりました。

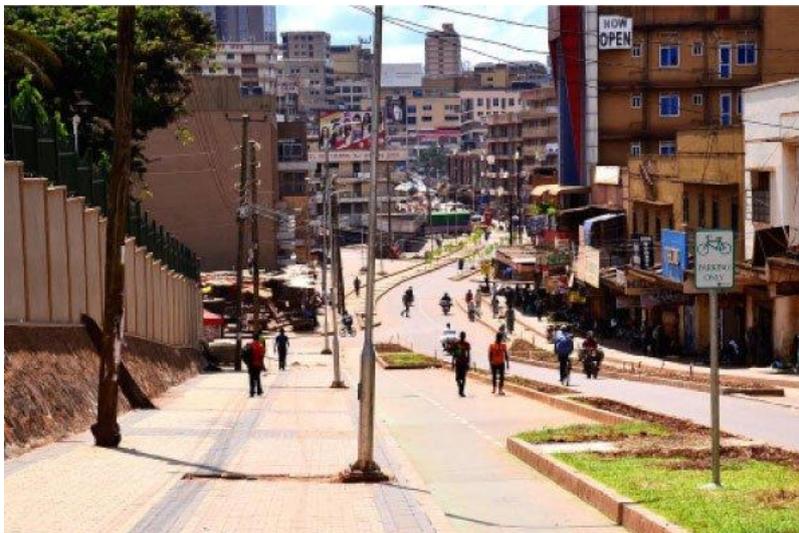


カンパラで最も混雑した場所の一つオールドタクシーパーク、コロナ流行前（上）と現在（下）

このような規制の影響を最も受けているのは都市部に住む人々のようです。食糧を入手するためには車やボダボダを使い町に出なければなりませんから、備蓄がなければ生活が困難になります。一方でふだんから自給自足の生活をしている地方の人にとっては、車を使

い食糧を買いに行かなくても自分の畑から収穫すればいいのですから、このような状況においては地方に住んでいてよかった、カンパラは怖いと言う人の声を聞きます。

次に、私の周囲の変化に触れてみたいのですが、実は3月31日より外出をしていないため大きな変化はあまり感じていません。たまに外出をする夫からの報告や現地ニュースから流れてくる情報によると、やはり人々の生活には少しずつ影響が出ているように感じます。道路には今までにないほど車が少なく、走っているのは運輸省から許可されたステッカーを貼っている限られた車のみです。ボダボダは人ではなく物資を運ぶ場合のみ使用が許されているため、数も多くありません。そのため、ふだんであれば排気ガスで汚染されたカンパラ近辺の空気が、心なしかきれいになったという声を聞きます。買出しは基本的に徒歩で行くか又はバイクタクシーが代行してくれます。病院に行く必要のある人は、県で大統領を代表するRDCと呼ばれる総督に相当する高官から許可の書面を取り付けた場合のみ自家用車で行くことが可能ですが、ワキソ県の場合200万人を超える人口を一人が抱えるのは非常に大変だろうと想像します。そして、ライフラインに関わらない商業活動、非食料品店やサロン等のサービス業も営業停止となっています。このようなコロナ対策により生活に影響の出る日雇い労働者や自営業の人に向けて、政府は食糧配布を始めました。とは言え、私の住む郊外の小さな町では取締まりの目があまり行き届いていないこともあり、人々は今までと大きく変わらない生活をしている印象です。



ふだんは車両で混雑する通りも徒歩の人がまばらにいるのみ

もう一つ、人々の生活に変化を与えたものとしてはお祈りがあります。日曜日は多くの方が教会に行く日ですが、宗教関連の集会在禁止されて以来我が家も1ヶ月ほど教会に行っていません。ミサはテレビやラジオを介して提供してくれるので、日曜日は自宅からテレビを見ながら家族で参加をします。間もなくキリスト教にとってはクリスマスと並ぶ大事な行事、イースターが始まります。今年のイースターは教会に行くことも親戚や友人と集まることもせず、家で家族と過ごすある意味温かい時間になるのではないのでしょうか。



現地テレビで放送された聖金曜日の典礼の様子

ロックダウン中の生活はといえば、できるだけふだんと変わらないよう少しだけ努力をしています。休校中の子どもには、一日のタイムテーブルを作成しなるべくそれに沿って生活してみるようにし、時間がたっぷりあるのでふだんなら後回しにする工作やお菓子作りを試みています。運動不足になるので、夕方には家族で庭に出て一時間半ほどバドミントンやランニングなどのエクササイズをします。外食や買い物ができないので、毎日自炊をします。不要な外出がなくなり、無駄な出費がなくなりました。買い物に行けないことが不便に感じるときもありますが、マトケを栽培しているお隣さんがお裾分けをしてくれたり、養鶏をしているご近所さんから新鮮な卵を買ったりと、田舎だからこそそのライフスタイルに大変助けられていることを今まで以上に感謝しています。思い返せばこのように家族揃ってアクティビティをしながら一日一日を大切に過ごす、ということは今までなかったように思います。不謹慎にも、このロックダウンがもたらしてくれた生活の中で多くを気づかせてもらえたい機会になっています。

医療設備の不十分なウガンダで感染が拡大したら対応が困難になることは明らかです。だからこそ、このような強靱な対策が取られているのだと思いますが、国民も概ね大統領令を守りながらこのウィルスに打ち勝とうと頑張っています。ムセベニ大統領はゴールデンタイムの20時にお茶の間に登場し、3月18日の第1回目から既に7回もの演説を行っています。先日は、国民に向けて室内でのエクササイズを呼びかけるデモンストレーションを大統領自らが体を張って発信してくれました。コロナ対策に国を挙げて全力で戦っていることがわかります。

先が見えない閉塞感から不安も募りますが、気候のいいウガンダにいると何故だか大丈夫、とポジティブな気持ちになる日もあります。しかし、この温暖な気候が気持ちを緩ませる要因にもなりかねないので、今は気を引き締めながら指示に従い耐える時なのだと思います。政府の対応が功を奏し、一日も早く人々の生活が元通りになることを願わずにはられません。

最後にコロナウイルスに関連した明るい話題を。ウガンダでは国民的2大スター歌手である Bobi Wine と Bebe Cool、また現地で大人気のコメディアンがそれぞれコロナウイルス感染防止を呼びかける啓発ソングを発表しました。中でも、Bobi Wine による“Corona Virus Alert”（コロナウイルス警告）は英語とガンダ語（ウガンダ中央部で話されている現地語）による分かりやすいメッセージをのせたアフロビート調のよくできた曲です。The bad news is that everyone is a potential victim（残念なことに皆が被害者になり得る）、But the good news is that everyone is a potential solution（しかし皆が解決策にもなり得る）の歌い出しで始まる曲は、暗くなりがちな今の私たちに元気をくれるかのように。皆さんも是非一度聴いてみてはいかがでしょうか。

（了）